

平成十六年度入学試験問題
国語 一〇一
(前期日程)

出題意図

概要

高等学校卒業程度の学力にふさわしいと考えられる範囲内で、文章を理解・把握する上での基礎的な学力、及びセンター試験では測定することのできない文章表現力を問うた。

第1問

随筆文を取り上げ、内容把握とそれを説明する能力を問うた。あわせて漢字の読み書きの力についても問うた。

- 問1 漢字の読み書きの能力を問う。
- 問2 文意を正確に理解し、まとめる能力を問う。
- 問3 抽象的な表現を正確に把握し、説明する能力を問う。
- 問4 抽象的な表現を把握し、より日常的な語彙を用いて説明できるかを問う。
- 問5 文章全体の内容を把握し、それを的確に表す標題を見つけることができるかを問う。

第2問

文章の題材としては、日本の食文化に関連した内容のものを選んだ。基本的な漢字の表記・文章の読解等を中心に質問を設けた。

- 問1 基礎的な漢字が正確に書けるかどうかを問う。
- 問2 「祖先は優秀なデザイナーだった」という記述との関連を理解できるかどうかを問う。
- 問3 「モノづくりへの思い」という語句を説明している文を本文中から見つけられるかどうかを問う。
- 問4 比喩的な表現を理解し、「一瞬の快楽」が具体的に何を指しているかを問う。
- 問5 括弧の前後の文章に表れる「焼く」、「天日にさらす」という表現を手がかりにして、的確な語を見つけられるかどうかを問う。

第3問（選択）

日本古典文学作品を読解する力、並びに、読解した内容を的確に表現する力を問うた。

- 問1 問題文中より適切な箇所を見出し、それを的確に解説できるかを問う。
問2 和歌の表現についての基本的な理解力を問う。
問3 文脈を正確に認識できているかを問う。
問4 『十訓抄』所収説話の意図が認識できているか否かを問う。
問5 一つ一つの語彙の意味が正確に押さえられているか、また、前後の文章との関連をも考慮した現代語訳ができているかを問う。
問6 同語彙が異なる意味で用いられる事について正しい認識があるかを問う。

第4問（選択）

古典漢文でよく使用される構文や、古典中の人々のものの考え方が示されている文章を題材にして、漢文の基本的な文法や古典読みとり能力が判断できるよう設問した。

- 問1 「不亦く乎（反語）」「猶（なおくごとし）」「令（使役）」といった漢文の基本構文の理解ができているかを問う。
問2 文章の前後関係が正しく理解できているかを問う。
問3 漢文で頻繁に使用される「聞之（私は次のように聞いている）」というスタイルが理解できているか、またその内容を正しく読み取って説明できるかを問う。
問4 漢文で常用される比喻表現が正確に読みとれているかを問う。
問5 全体の主題が正しく読みとれているか、またそれを的確に表現できるかどうかを問う。